



2026年5月14日

各 位

会 社 名 株式会社 MUSCAT GROUP
代表者名 代表取締役 大久保 遼
(コード：195A、東証グロース市場)
問合せ先 取締役経営管理本部長 森岡 祐平
(TEL. 03-6684-2373)

連結業績の前期実績値との差異及び法人税等調整額（損）の計上に関するお知らせ

当社は、本日公表した2026年3月期（2025年4月1日～2026年3月31日）通期連結業績につきまして、前期（2024年4月1日～2025年3月31日）実績値との間に差異が生じたので、下記の通りお知らせいたします。なお、当社は当該期間に係る業績予想について、経常利益及び親会社株主に帰属する当期純利益を公表していないため、増減につきましては実績値との比較になっております。

また、2026年3月期第4四半期連結会計期間（2026年1月1日～2026年3月31日）において、繰延税金資産の取り崩しに伴う法人税等調整額（損）205百万円を計上いたしましたことを合わせてお知らせいたします。

記

1. 2026年3月期通期連結業績の前期実績との差異について

(1) 2026年3月期通期連結業績の前期実績との差異

	経常利益	親会社株主に帰属する当期純利益
前期実績値（A） （2025年3月期）	百万円 95	百万円 112
当期実績値（B） （2026年3月期）	△451	△368
増減額（B－A）	△546	△480
増減率（％）	－	－

(2) 差異の理由

経常利益につきましては、持株会社体制への移行に伴う体制構築費用、M&A推進に係るアドバイザー費用、ならびに各ブランドの成長加速に向けたマーケティング投資等により販売費及び一般管理費が大幅に増加したこと、加えて当社ブランドパートナー領域におけるクライアントのマーケティング内製化加速に伴う受注減少により売上高が想定を下回って推移したこと、さらに各種自社ブランドの生産プロセスにおける原材料費及び物流コストの高騰、為替変動の影響等が

全体的に利益を圧迫した結果、前期実績値と比較して546百万円減少し、451百万円の経常損失となりました。

親会社株主に帰属する当期純利益につきましては、上記の経常損失の計上に加え、特別利益として連結子会社であった株式会社NADESIKO及び株式会社ライスカレーLSの株式譲渡に伴う関係会社株式売却益を計710百万円計上した一方、特別損失として株式会社WinC内で展開する旧：株式会社RiLiの事業（RiLiキャスティング事業・アパレル事業）に係るのれん減損損失304百万円及び事業撤退損26百万円、商号変更等関連費用30百万円を計上いたしました。さらに、「2. 法人税等調整額(損)の計上について」に記載の通り、持株会社体制移行に伴うグループ内取引の利益構造再構築等を踏まえ、繰延税金資産の取り崩しを行い、法人税等調整額（損）205百万円を計上したことにより、前期実績値と比較して480百万円減少し、368百万円の親会社株主に帰属する当期純損失となりました。

2. 法人税等調整額(損)の計上について

当社においては、2026年3月期中に持株会社体制へ移行しており、当該体制における最適なグループ経営を推進することを目的として、2027年3月期の親子会社間の経営指導料をはじめとするグループ内取引の制度設計や利益構造を再構築し、繰延税金資産の回収可能性を慎重に検討した結果、繰延税金資産を取り崩すことで法人税等調整額を126百万円計上いたしました。

当社の連結子会社である株式会社WinCにおいては、MiisやMOVE. eBike等の既存事業は増収増益を見込んでいる一方で、上述した2027年3月期の親子会社間のグループ内取引における利益構造の再構築に加え、今後の新規ブランド展開を見据えた先行投資等を織り込んだ将来計画を考慮し、繰延税金資産の回収可能性を慎重に検討した結果、繰延税金資産を取り崩すことで法人税等調整額を79百万円計上いたしました。

合わせて、その他複数の要因と相殺した結果、2026年3月期において法人税等調整額（損）として、計111百万円を計上しております。

法人税等調整額(損)の計上による業績への影響につきましては、本日公表の「2026年3月期 決算短信〔日本基準〕(連結)」に反映しております。

以上